

第 28 回 三重河川流域委員会 議事要旨

日時：令和 7 年 10 月 20 日（月）13:30～15:30

場所：三重河川国道事務所災害対策室＋WEB 会議

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

(1) 三重河川流域委員会での事業評価の審議予定

- 了承された。

(2) 鈴鹿川直轄河川改修事業の再評価（原案）

- 魚を放流すると、大雨で魚が流出する事例がある。農作物被害に、魚類の影響は見込んでいるのか。

→治水経済調査マニュアルでは、水田・農業用施設の単位面積当たりの被害額を計上することとなっている。氾濫域の被害を対象としているため、水域の被害（漁業被害）は計上していない。

- 横断工作物（頭首工）の改築では魚道以外にも、魚が遡上できるような簡易構造物を整備することは有用であるため、計画に入れて欲しい。

→検討においては、専門家等のご意見を伺いたい。

- 鈴鹿川直轄河川改修事業について、対応方針（原案）のとおり事業継続を了承された。

(3) 鈴鹿川水系河川整備計画の点検

雲出川、櫛田川、宮川水系河川整備計画の点検（事業進捗状況の報告）

- 鈴鹿川の事業で治水安全度は向上しているのか。効果の見せ方を工夫してほしい。

→資産の大きい下流部の掘削事業を中心に進めており、効果が出ていると考えている。効果の見せ方を工夫していきたい。

- 頭首工の改修は、具体的にどのような事業を想定していて、何が課題なのかを教示いただきたい。

→河川整備計画では3堰の改築により、河道断面を拡大することとしている。現状と同じ農業用水の取水量をどのように担保していくかというのが主な課題である。

- 河川水辺の国勢調査結果より、流域全体における鳥類の種数は概ね横ばいであり、河川整備実施区間だけで比較すると、事業の影響が出ていることが分かった。流域全体と、河川整備実施区間での影響を整理する手法は、今後も続けていただきたい。

- 鈴鹿川で河道掘削した土砂は、四日市港へ運んでいると説明があった。三重4河川の掘削土砂は現在も、全掘削土を四日市港へ運んでいるのか。

→現在は四日市港ではなく、別の場所に運んでいる。県や近隣市町に協力いただき、必要な公共事業（盛土造成等）に使っている。単純な廃棄は控え、コスト削減できるように、事業連携を模索している。

- 掘削土砂には河川特有の生物・植物の種が含まれているため、流域外に運ぶことは悪影響を及ぼす。外来種の拡散に繋がる可能性にも、留意すること

→掘削土の処理は三重県内では完結しているが、流域内で全掘削土を処理するのは困難である。

- 鈴鹿川で実施されてきた河道掘削・樹木伐採は、生物に悪影響を与える可能性がある。資料で保全・創出と記載されているが、具体的な整備箇所を教示いただきたい。単純な生物の移植ではなく、干潟や砂浜の保全・創出がどこで、どの程度されたかを教えて欲しい。

→鈴鹿川の干潟創出、櫛田川における氾濫原の湿地環境（ワンド・たまり）の再生等に取り組んでいる。

河川環境の定量的な目標（干潟面積、瀬淵の箇所数等）を作っていく流れが全国的にある。今後予定している河川整備計画の見直しの際は、定量的な目標の設定・評価に取り組んでいきたい。

- 鈴鹿川はダムを有していない。どのような想定で、正常流量を検討していくのか教示いただきたい。

→鈴鹿川は砂河川であり、瀬切れも発生するため、正常流量の設定が難しい。地下水の状況も視野に入れることも含め、どのように正常流量を設定するか、検討を進めているところ。

- 河川整備計画の流量配分図では、鈴鹿川分派前後で流量が異なっている。（分派前・高岡 3100m³/s → 分派後本川 2200m³/s、派川 1000m³/s で、合計が一致しない）

→数値は、丸め（切り上げ）しているため、合計が一致していない。

- 地下水の利用と説明があったが、流域全体で地下水は把握できているのか。流域全体における地下水位の推移が分かるデータがあると、有用である。

→河口部、頭首工付近の地下水位の変化等を把握し、工事の影響による分析等で活用している。

- 農業水利の立場から地下水の取水を考える必要がある。鈴鹿川の正常流量を設定では、取水はどのように考えるのか。

→鈴鹿川は地下で伏流しており、取水と河川水位の関係の把握は難しい。正常流量に

については、魚類への配慮などさまざまな面から定めていく。

- 鈴鹿川水系の下流部は河床勾配が小さいため、水が流れにくく、ヘドロが溜まって水質が悪い。土砂がフラッシュしやすいような河道整備をすることは可能か。

→特に下流部では土砂が堆積し、樹木等も繁茂するため、出水で土砂が移動せず、再堆積の懸念もある。高頻度で河川水が流れるよう河道掘削を実施し、土砂の表面が見えるような整備をすれば、洪水時に砂がフラッシュされ、河道の維持に有効であると考えている。

- 雲出川における陸上昆虫類の減少は、植生変化が要因という説明があった。詳細な事例を教示いただきたい。

→チョウ類等の減少の要因は、その種が好む植物種が減少し、結果としてチョウ類等が減少していると推測している。因果関係の詳細を確認し、更なる考察を実施する。

- 鈴鹿川、雲出川、櫛田川・宮川水系の河川整備計画は、引き続き現行の整備計画の進捗を図ることです承された。

4. 話題提供

最近の河川事業を取り巻く話題（気候変動を踏まえた計画への見直し）

5. 閉会

以 上